



コロナ禍においても右肩上がりの成長を続けてきたテクノプロ中国。市場の動きを敏速にとらえて変化を続けてきた組織について沈毅様に色々とお伺いしてみた。



善誠科技发展(上海)有限公司  
総経理: 沈毅

## ① 現在の事業環境について教えていただけますか？

テクノプロ中国は、『もの創りを支える』を使命とし、ソフト+ハードの総合技術ソリューションを提供、スマート・ファクトリーと製品研究開発に注力しています。主には製造業のお客様向けにソフト（IoT・AIシステム開発、組込制御）とハード（機械・電気設計）の技術ソリューションを提供しております。

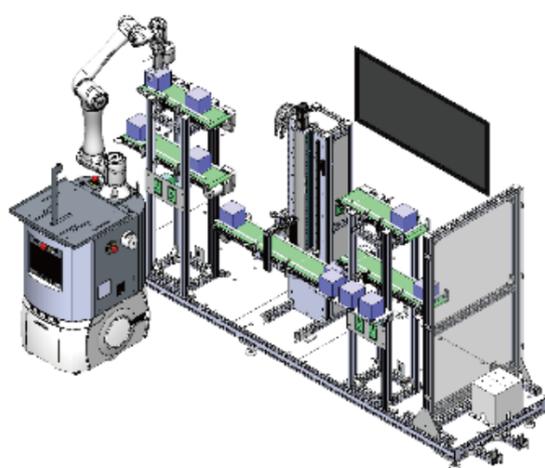


## ② どんなところに重点をおいて事業展開しているのでしょうか？

注力分野としては付加価値の高い、車やFA分野（IIoT（インダストリアルIIoT）、視覚外観検査、自動化システム、設備管理など）で重点的にビジネスを展開しています。FA分野では、設備投資がどこにいくかに合わせて事業の重点を変えるようにしています。昔は液晶だったのが今は半導体やEVIにシフトしています。AIや自動運転といった分野への取り組みも始めています。また顧客も日系企業だけではなく欧米企業や中国企業の開拓もこれから進めていこうと考えております。

## ③ 貴社の強みはどのようなところにあるのですか？

Slerとして技術サポートできることです。例えばFA機器では、スマートファクトリー化を進める上で機器の導入後のサポートが不可欠です。こういったサポートをきめ細かくできることは強みの一つです。また大手が担当しないような小さな案件でも対応できるという機動力も我々の強みです。実は弊社のような技術アウトソーシング企業の中でソフト+ハードの両方ができる総合エンジニアリング会社というのはまだまだ少ないです。技術進歩、顧客の要求が複雑化するなかにおいては総合エンジニアリングサービスを提供できるというポイントは弊社の発展に関して、更に優位に働くと考えております。

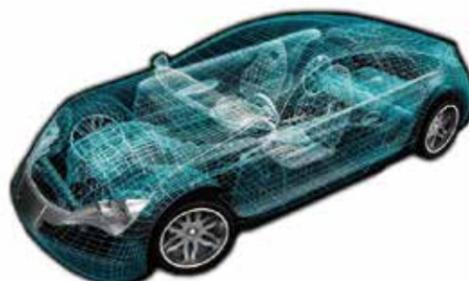


## ④ コロナ禍においても業績を伸ばしていると言いましたが？

はい。このコロナ禍の3年間の中でも業績を伸ばし続けていました。それは常にニーズのある顧客を開拓してきたからです。例えばコロナ禍における食品工場からはたくさんの依頼を頂きました。また日本からの出張者が来ることができない中で業務を現地化するという動きが進んだことから弊社への依頼が増えたということも追い風となりました。

## ⑤ 業績拡大に伴い人員も増加しているのですか？

5年前に300名くらいだったのが、今は500名強までに拡大しております。上海、大連、無錫、合肥、広州、杭州に拠点がありあす。合肥は基本的に新卒中心で採用活動を行っており、新卒一期生はPMに昇進しています。我々の会社にとっての財産は技術者です。優秀な技術者を採用・定着・育成については常に力を入れて取り組んでいます。



## ⑥ 例えばどんな取り組みをしてらっしゃるのですか？

採用活動については“全員で採用活動”というテーマで社員紹介を促進しています。紹介者へのインセンティブを導入してからは安定的に社員紹介が出てくるようになりました。また育成については“終身学習”というテーマをもって会社で学び続けられる体制を準備しています。E-Learningコンテンツの導入や、日本語研修、アライアンスパートナー（他機関及び大学）との共同プロジェクトを実施する中で新しい技術に触れる機会の提供などがその代表例です。また処遇に関してはトップクラスの技術者への特別処遇制度なども導入しました。同時に、“会社がより良い仕事を提供し続け、社員が仕事を通じて成長発展ができる環境を実現する。”そのための事業発展をすることが良い採用・育成を行う上での大前提であることは経営者として常に意識しています。

## ⑦ 沈様ご自身はこの会社で働く一番の魅力はなんですか？

楽しく挑戦をできたこと、チャレンジが成功したらまた別の機会を与えてくれて持続的に成長できるということです。また仕事は楽しめないといけないう文化も非常に良いと思います。今は会社の総経理として若い世代に同じような環境を提供し続けたいと思い日々頑張っています。



## ⑧ 最後に読者にメッセージをお願いします。

このコロナの3年間苦しい時期が続いていましたが、ようやく収束しそうです。これからは景気全体も回復し、色々やりやすい年になりそうですので今年の事業の成長にとっても期待しています。

~~取材を終えて~~

企業の財産である技術者に活躍してもらうために“全員採用”“終身学習”といった方針に基づく組織運営が印象的であった。人事の方針が現場の仕事にまで落としこまれているのだらうなとイメージできた。この文化をもった組織が成長を続けることがとても楽しみである。